

会議録

1 会議名

令和7年度 第7回高田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

自主的な審議（公開）

（1）今後の活動について

3 開催日時

令和7年11月17日（月）午後6時30分から午後7時45分まで

4 開催場所

高田城址公園オーレンプラザ 研修室・会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）

・委員：瀧市会長、廣川副会長

　　飯塚委員、上原委員、北川委員、柴田委員、下村委員、杉本委員、

　　冨田委員、町委員、宮崎委員、村田委員、茂原委員、吉田委員、

　　渡部委員（欠席5人）

・事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、小池副所長、石黒係長

8 発言の内容

【石黒係長】

・栗田副会長、佐藤委員、山崎委員、山岸委員、淀野委員を除く15人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【瀧市会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：廣川副会長、杉本委員に依頼

— 次第2 自主的審議事項（1）今後の活動について —

【瀧市会長】

次第2 自主的審議事項（1）今後の活動についてに入る。

前回は、話し合いのテーマについて候補ごとに話し合い、資料No.1のとおり取りまとめた。本日は、その続きということで上から順番に進めたいと思う。ほぼ決定した候補に番号を付け、そのほかはまだはっきりしたことが決まっていないものである。

・資料No.1により説明

説明に対し、質疑を求める。まずは、1についてどうか。明日11月18日の午前9時から市民プラザで宮元33町内会による高田祇園祭についてのワークショップが行われる。我々、正副会長は傍聴する予定だが、人数の余裕があるので傍聴したい方がいたら挙手願う。終了予定は11時15分である。

・希望者なし

【富田委員】

11月18日のワークショップに参加する町内会は37である。33町内が氏子で、稲田地区の4町内が準氏子である。

【杉本委員】

宮元は、本町2丁目、3丁目と仲町2丁目である。

【瀧市会長】

その辺の話は、このワークショップに出席して勉強したいと思う。

【茂原委員】

ワークショップには、正副会長と希望者が傍聴するのか。

【瀧市会長】

我々は傍聴で、参加者ではない。

【茂原委員】

内容がよく分からぬ状態で傍聴するのか。

【瀧市会長】

高田祇園祭の説明もあるから傍聴するのである。

【茂原委員】

場所や時間の説明があるべきではないか。

【瀧市会長】

今ほど説明した。朝9時から市民プラザ第1会議室である。

【茂原委員】

今日、「明日の9時からやるから、皆さんどうですか」そんな急な話はないのではないか。

【瀧市会長】

前回も11月18日にワークショップとするということはお知らせした。

【茂原委員】

場所や時間についていない。

【瀧市会長】

私も知らなかつたから、開催日だけお知らせした。

【茂原委員】

知らせるべきではないかということを言っている。

【瀧市会長】

私も本当に知らなかつたのだから仕方ないではないか。

【茂原委員】

会長が知らなくて、誰がこの手紙をよこしたのか。

【瀧市会長】

富田委員から情報をいただいたのだが前回欠席だった。

次に、2について質疑を求める。

このことについて市の担当課を通じて高田河川国道事務所に照会した。その結果を事務局から報告願う。

【石黒係長】

稻田橋上流の当該箇所については、現状必要な地山の掘削は終了しており、水を流すのに有効な河川の横断面は確保されている。地山とは、もともとの地盤のことである。現在、堆積した土砂が目立つ箇所もあるかもしれないが、これは近年大きな洪水

がない影響で、通常流れていくであろう土砂が地山の上に堆積している状況である。基本的に地山と堆積土砂は違うものであり、地山はそう簡単に変化しないが、堆積土砂については、川の流れが変化したり、洪水が発生する都度、移動すると考えている。その中で、長期にわたり堆積土砂が流されない状況が続き、樹林化、地山化するようなことがあれば、対策の必要があると考えるのでモニタリングを実施している。なお、当該箇所については、今年度、上流の鴨島地区において、河道掘削を行っており、これにより川の流れは変化すると思われるため、引き続きモニタリングを実施していく予定である。

【瀧市会長】

技術的な話もあったが、事務局の説明について質問を求める。

【飯塚委員】

地山について、もう一回説明してほしい。

【石黒係長】

本来の硬い地盤のことである。工事で土砂を盛ったとか、そういう場所ではない天然の地盤のことである。

【飯塚委員】

承知した。

【瀧市会長】

ほかにどうか。もともとの地盤ということで、洪水になるとその上にどうしても上流から土砂が押し流されてきて堆積する。地山の上に堆積したものを堆積土砂と言う。それはそれほど溜まっていないということで、現状では計画の水量を流す能力があるということだそうだ。

【富田委員】

7月26日に高田祇園祭の関係で船に乗って川下りをした。みこしを乗せた船は、直江津の近くで座礁して動かなくなった。結構浅くて船頭さんが引っ張って動かした。あれでよいのか。

【石黒係長】

今年は、渴水の影響があったと思う。

【富田委員】

渴水の影響か。

【瀧市会長】

晴天がずっと続いていた頃か。

【吉田委員】

今年は川下りできたのか。最近はトラックに乗せて運んでいたと思う。

【杉本委員】

今年は途中まで車で運んで、県の工業用水の取水せきの下のほうで川に入れた。

【富田委員】

直江津港に着く直前で座礁したので、大分積もっているのではないか。洪水があつても大丈夫なのか。

【瀧市会長】

7月、8月の大渴水の頃なので、流れてくる水が少なかったということだと思う。

【富田委員】

我々素人は、あれだけ水があるから大丈夫だなと思ったが、思ったより浅いことがわかった。

【瀧市会長】

3について、事務局から市の関係課に確認してもらった。管理について私が思っていたのと少し違っていることが判明したので事務局から説明を求める。

【石黒係長】

今回話題にあがった、ナルス北城店近く、北城町3丁目バス停西側の青田川の整備と管理について、市の河川海岸砂防課に確認した。県では約30年前に親水性を持たせる整備として、堤防から水辺までの法面や高水敷という、水の流れより一段高い部分に芝を張ったり、水生生物のための漁巣ブロックの設置等を行った。その後の維持管理については、市と県で協定を結び、市としては草刈りと植樹管理を年1回実施している。参考までに新幸橋から上流では県が草刈りを年1回実施するほか、県及び市の実施区間において自主的な除草に取り組んでいただいている町内会に対しては、市から1回分の除草を委託する形で費用を負担している。

【瀧市会長】

今の説明を事前協議の時に聞いて写真ももらった。水面から少し高い所に芝生が

植えてあるそうだ。どこが管理しているか知らないが、草が相当生える。芝生を植えても翌年には恐らく草が茂るが、市が除草する予算は1年に1回分だけで、それ以外は近隣の町内会にボランティアとして除草をお願いしている。淀野委員が指摘した場所では、草だらけになっていることがある。これは、河川管理者の怠慢ではないかということをおっしゃったのか。本日は欠席されているので何を問題としたのか分からぬが、町内会で草刈りを実施しない所は草だらけになっている。夏は草刈りをしても2か月で草だらけになる。本来ならば草刈り後の状態を維持しておかなくてはいけないがそれがなっていない。そうしないと、ここにせっかく作った遊歩道を活用できない。降りていけるように階段もあるが、こんなに草だらけだったら歩けないのではないかと淀野委員は指摘した。誰が管理しているか知らないが、青田川は関川の支流だから一級河川である。ある地点までは県の管理でそれより上流が市の管理になっていると私は推測する。

【石黒係長】

その点についても確認した。青田川は一級河川だが、国の管理でないのは河川法において「国土交通大臣が指定する区間内の一級河川に係る国土交通大臣の権限に属する事務の一部は、政令で定めるところにより、当該河川がある都道府県知事が行うこととすることができる」とされており、青田川はこれに該当するため県の管理になっている。

【瀧市会長】

かなり上流までか。

【石黒係長】

範囲まではわからない。

【瀧市会長】

県もまた市に一部管理委託をしているのではないか。淀野委員が本日欠席されているので結論は出せないが、事務局が調べて実態はそういうことだとわかった。これはペンドィングにして、淀野委員が出席している時に確認したいと思う。それほど急ぐものではないと思うので、そういう取り扱いとしたい。

4については、町内会レベルで議論すべき話だという指摘が前回あった。私もまさにそのとおりだと思う。これは社会学的な知識が必要になってくるので我々が話し

合うのは無理ではないか。今期では課題として取り扱わないということをここで確認したい。

【富田委員】

ものすごくパワーを要するのでできないだろうと思う。私と町委員が編集委員として地域協議会だよりを年3回作っているが、例えば57ある町内会を五つくらいに分けて、委員が3人くらいずつ出向いて地域協議会だよりを基に今こういう活動をしていると説明し、ほかに何かあるかとか意見交換してはどうか。我々も町内の課題を把握でき、町内会の人たちにとっても相互のコミュニケーションの機会になることからこれを提案したい。夜6時半から8時くらいまで、それを3、4か月に1回やる。そうすると町内会のコミュニケーションもとれるし、地域協議会と町内会のコミュニケーションにもなるということをいかがか。

先日、市議会議員との意見交換会に参加した。これから議会は、もっと皆さんの意見を吸い上げたいという。なぜかというと、開かれた議会ではないから。自分が言ったことを市議会で一般質問しているなとか、関心が高まって政治に興味を持つと言っていた。まずは、コミュニケーションしましょう。これから特に高齢化していくこともあり、地域協議会も年1回でもいいからそういうことをやってはどうか。

【瀧市会長】

富田委員の提案は、地域協議会と住民との意見交換会をやつたらどうかということである。町内会をブロックに分けて、我々の代表が出向いて町内会や住民の方と意見交換会を行う。

【富田委員】

昔やったことがある。これをやると町内会からいろいろな意見が出て、それをまとめてフォローしないといけないのですごく大変である。ところが、前回そのフォローをほとんどしていない。だから、瀧市会長は難しいだろうと言うのだと思う。

【瀧市会長】

難しいとは言っていない。私が富田委員の提案をまとめただけである。年3回にするのか、あるいは、ブロック別にするのか、例えば、このホールを使って年1回そういうことを行うかは、これから議論していこうと思う。まず、そういうことが必要か、やりたいか。もしやるとしたら、参加したい委員がいるか。参加したくないとい

う方もいるから。皆さんのお意見を伺いたい。

【杉本委員】

高田地区町内会長協議会というのがある。57町内を束ねているが、その中に八つのブロックがある。平均1ブロック7町内で、多いところは10以上、少ないところは五つ六つしかないところもある。各ブロックは、町内会長だけが集まる会合が結構ある。町内会長だけで見ると「また会ったね」という感じである。

前回やったのは、二つか三つぐらいのブロックを一緒にして集まつてもらったのではないかと思う。その時に町内会長と2、3人の住民に出席してもらつてくださいという案内だったと思う。できればそのうち1人は女性をお願いしたいということを集まつてもらった。出た意見をどうしたかは覚えていない。

【富田委員】

先輩には失礼だが、私の評価はやりっぱなしである。もちろん全部それを調べた。やりっぱなしと言うより難しい問題である。買い物難民とか、そういう非常に難しい問題。地域協議会ではなかなか扱えないというか、そういうのが残つてくる。またやれば、またそういう課題が出ると思っている。ただ、実態を知るには大事ではないかと思う。

【杉本委員】

少し思い出した。病院の話とスーパーマーケットの話が出た。高田の町の中から大きな病院がなくなるという話が話題になった。それから、郊外に大型店がいろいろとできて、街中の商店がどんどんなくなっているので高齢者が買い物に行くのが大変だという話があった。

【瀧市会長】

確認したいのだが、町内会長と委員との意見交換会か。

【杉本委員】

そうではない。町内会長と町内の住民2、3人で、そのうち一人は女性というお願いを地域協議会からした。

【瀧市会長】

それは3回ぐらいだったのか。高田には町内会は70くらいあるのではないか。

【杉本委員】

5 7町内会である。八つのブロックを二つずつに分けてやったと思う。

【瀧市会長】

大変だと思う。我々は今までやっていないが、もしやるとしたら、まず年1回だと思う。市民との意見交換会ということでやるのでないか。

【町委員】

すごく批判されると思うが、私は町内会活動というものにはほとんど参加していない。町内会の総会にも出たことがないし、そろそろ役員が回ってくるって言われていて、時間を取りられないものだったらできるがみたいな感じである。普通にゴミ出しとかはやっているが、町内会活動というものが住民の負担になっているだけというか、そこにぎわいをとか、あまり関心がない世代というのが私たちの世代というか、現役で働いている人たちは日中は家にいないし、休みの日は休みの日で家族や友達との動きになると思う。町内のまとまりというのは、雁木通りなので一斉除雪をするとか、そういう時くらいしかなく、コロナの後とか顔を合わす機会もないので難しいと思う。

【瀧市会長】

町内会と町内会の代表者と地域協議会の委員の意見交換会というよりも、市民との意見交換会というのだったらよいのではないか。

【町委員】

そこに市民側が関心を持っていない。そこに参加してもしなくても自分の生活に直接関わってこないという認識があると思う。町内会費がいきなり4万円になったりするくらいのインパクトがない限り、どうでもいいと言ったら口が悪いが、そんな考えの人が結構いると思う。どの時間にやるにしても、そこに時間を割く余裕がないというか、優先順位がかなり低くなると思う。私は、何をやっても変わらないと思ってしまう。

【瀧市会長】

率直な意見も分かる。

【渡部委員】

私が小さかった頃は、子どもが大勢いて町内会の行事がとても盛んで大人が一生懸命やってくれて、そうして町内ができていたかなと思う。近所があってその延長線

に町内があったみたいな感じ。私は20年間ここから離れていたので、その間に大分変わってきてているのだろうと思っている。今住んでいる所は昔から住んでる所ではないが、町内は機能しているし、皆さん助け合ってというのもあるが、今、PTAにも保護者がなかなか加入しないという中で、町内にもそんなには関心がないのかなと思う。

ただ、災害になった時に誰が一番助けてくれるかというと身近に住んでいる町内の方だから、例えば、防災訓練などはやはり出てきてほしい。町内はつながりが薄くなっているけれど大事だよねという「地域」という考え方は、みんなでもっと見つめていかなくてはいけないのだろうと思う。

しかし、地域協議会が市民の意見をどうやって聞くのか、聞いてどうするのか。市民の人たちの意見を聞いて、それを地域協議会として自主的審議をするのか。課題の解決に向けて自ら活動する団体ではないが、自主的審議で提案はできる。高田の人が今どんなことに困っているのか、住民の声を聞いたほうがよいとは思う一方、多様化で悩みもそれぞれ違う。世代によっても、高田の地域によっても違うし、町中の人と少し離れた所の人の悩みも違うだろう。そのような中で、どのように意見を聞くのか。交流をするのは賛成だが、目的が何かだと思う。

【瀧市会長】

どういう意見がありますかと、どういう困りごとがありますかと、必ずしも全部取り上げることはできるわけではない。これからも議論するが、地域協議会として取り上げができるものと、できないものがある。例えば、先ほどの地域のつながりについては地域協議会では取り上げられないという結論になった。意見を聞いて、どういう困りごとがあるかということをフランクに話していただいて、その中から10個に1個くらい地域協議会が考えることができるような課題が出てくるかもしれない。やる前から決めるつけることはよくないと思う。

【渡部委員】

それでいいのなら交流することはよい。

【瀧市会長】

実施するなら方法も考えなければならない。

【飯塚委員】

私の町内では高齢化が進み、現役の方が役員をやっている。ワンパターンの運営に對して高齢者の方たちは、なぜ、あの人たちはいつもあんなことしかやらないのだと、年間行事は大体決まっているが、町内会や子ども会をなくせばいいという言葉がすごく出てきている。町内会とは何なのか。町内会費の行方もよくわからない。支出報告も1円単位ではなく、端数を切った金額が出ているという人もいて、どのように使われているかわからない。同じ方たちが自分たちの親睦会みたいなことを多くやっているから町内会をなくせばいいというような意見も聞く。

【廣川副会長】

町内会で親睦会をやれるところはまだよいほうだと思う。そういう親睦会のようなものも無くなっているところが増えていると聞いていているので、人ととの関わりが深まるようなことがだんだんやりにくくなっている印象はある。

【瀧市会長】

今日結論は出ないので、次回継続で協議したいと思う。この件については、今日はここまでとする。

資料1の下のほうに書いてある3点について、確認、あるいは、皆さんのお見を伺いたい。この3点については、引き続き検討するということが確認された。

1点目について、高田の歴史遺産を活かしたにぎわいの創出の検討が提案されたが、どういうことが対象になるのか、どういうふうにしたらそれをを利用して高田の活性化ができるのかという具体的な話になると、途端に皆さんの口が重たくなって、とりあえず継続審議とした。この議題についていかがか。

【町委員】

にぎわいを創出するという目的は何か。

【瀧市会長】

何をゴールにして、どういう形でそこに到達するのか、目的は何かという議論すらまだしていない。

【町委員】

にぎわいという言葉自体イメージはできるが、その主体が誰なのかというのもある。市民で何かやって盛り上げてそこに人が集まつくるというタイプなのか、それであれば、既にやりたい人たちがやっていて、毎週末この辺でイベントとかやってい

る。その先にいきたいという感じのものか。イメージになってしまふが、何を目指すのかというのがぼやっとしすぎていて、話を進めるにも進まないと思った。歴史遺産を活かしてにぎわいというのが、文字だけ見ると飛騨高山みたいな雰囲気のまちを作りたいのかなと思った。

【瀧市会長】

町委員のおっしゃることは、全てが曖昧だということか。

【町委員】

どこから進めるのか。

【瀧市会長】

皆さんいいねと言うが、どのようにやるか教えてもらいたい。

【吉田委員】

私は歴史の遺産を言ったが、にぎわいを創設するようなことは言っていない。今の高田のいろいろなものをこれから後の人たちが使うために保存するということで、それを使ってにぎわいを創出するということは考えてはいない。将来に向けて大事なもの、古いものをできるだけ残していくかといけない。それによって、横浜のレンガ街とか酒田の蔵とかあるが、高田だったら本町6丁目の倉庫街、倉庫の場所だったので、今どれだけ残っているかわからないが、そういうのを活かして、将来、次世代の人たちが考えて、リメイクして何かやってもらえばいいかなと思う。

この頃、本町6丁目や大町に東京のほうから週末だけ来てお店を出す人もいたり、つい最近クレープ屋さんができたりしている。どういう方なのか時間を作つて行ってみたいと思う。稻田で昔の建物に外国の方が住んでいるが、その方が亡くなったら建物はどうなるのか。その近くにも古いものを維持している方がいらっしゃる。そういうものが文化財としての価値があるかどうかというのもあるが、そういうものを保存していくかといけないと思う。今となれば高田の市役所の建物も文化財だったと思う。あれをどうして解体したのか分からぬが、その頃にこういう保存活動があつたら立派なものになつていただろう。今井染物屋や師団長官舎より高田の市役所の建物のほうが文化財だったのではないかと思う。もう無くなってしまったものはどうしようもないが、今現存しているものをいかにして残していくか。それを将来活用して次世代の人たちに考えてもらいたい。今、にぎわいを創出することではな

い。将来のことである。

【瀧市会長】

まだ歴史的価値、遺産として残るかどうかわからないが、古いものをとりあえず残そうではないか。そういう運動を進めたいということか。市の指定文化財になるほどではないが、あと20年も経てばそういう動きも出てくるだろうということで、なるべく残すようなことを検討しようとするものである。なかなか難しい話である。

【富田委員】

町委員が以前、「高田は今の状態でよい」と言ったのがものすごく印象に残っている。彼は今の静かな高田が好きで、それを好む人もいる。吉田委員が言っている上越市の歴史文化を守ろう。歴史文化を守ることで、にぎわいをつくるのではない。まさに保存する。瞽女ミュージアムや小林古径記念美術館の会員になっているが、存続が非常に厳しくなってきている。高田にはそういう大事な歴史文化がたくさんあるので、まずは皆さんで共通認識を持って、これは大事な活動である。これをやっておけば、30年、50年残る。それについてここで議論したらよいのではないか。

【杉本委員】

東本町の瞽女さんが住んでいた家が解体された。関係者がいろいろ頑張ったようだが、市は要らないと言って壊した。

【瀧市会長】

持ち主はどこにいるのか。

【杉本委員】

私の同級生が所有していたが亡くなった。所有者が亡くなったから壊したことになっている。昔、雪下駄を作っていた方の家も今、空き家になって、お子さんが解体するかどうするかという話になっている。そういう歴史的にそのまま残しておくとよいと思われるものがどんどん解体されていく。何とか抑えられないかという思いがある。

別の話だが、雁木を保存するのに補助金が出る。今ある雁木を壊して新しい雁木を作った時に補助金が出るが、今ある雁木を残しておくのには補助金は出ない。これは、おかしいのではないかと前から言っている。そういう文化財というか、先人の遺産というか、そういうものを本気で残していくかないと新しい雁木を連ねて雁木通り

と言っても価値がないから観光客は来ない。そういうことを市の担当課と一緒に話をしたりするがなかなかそこが進まない。

【瀧市会長】

地域協議会委員が理解しても、市民の中からそういう考え方、動きが出てこないと無理である。村上市に町家の開放を見に行つたことがあるが、高田とは住民の考え方には大きな違いがあると感じた。自分たちが住んでいる所もなるべく古いままで、そういうことが市民の動きとしてある。そういうふうな形まで持つていかないと一部の地域協議会委員が理解して頑張っても無理なのではないか。そういう考え方を市民の間に広めるにはどうしたらいいか考える必要があると思う。

【杉本委員】

そこまでいくと地域協議会の範囲を超えるのではないか。

【瀧市会長】

超えている。ただ、非常に面白い意見交換だったと思う。どのように取り扱うかについては、正副会長と事務局で検討したい。

2点目について、非常にありがたい提案だった。研修会というか学習会をやつたら委員の知識レベルはかなり上がると思うが、その結果を地域の皆さんにどのように還元していくか考えると、地域協議会委員だけの学習会の実施が本当に必要なのかという疑問がある。私は学習会をやるのは難しいのではないかと思った。皆さんの考えをお聞きしたい。

防災士の資格を持つ委員が3人いらっしゃって、前回も避難場所と避難所は違うという基本的な話から説明を受けた。勉強会をすれば確かに災害についての委員の知識は上がるが、それをどのように活用するのかと言われると難しいと思う。

【富田委員】

防災士は町内会に対して勉強しましようと働きかけることが大事だと思う。地域協議会が入ってどうこう言うのはちょっと違うのではないか。

【瀧市会長】

ほかに意見はないか。

(意見なし)

では、防災についての学習会は行わないこととする。

3点目について、12月から大雪になるのではないかという情報もある。長期予報で令和4年1月のような大雪が再来するのではないかということで、みんなでもう一度考えたらどうかという村田委員からの提案である。補足はあるか。

【村田委員】

補足はない。

【瀧市会長】

高田区地域協議会でも令和4年の1月の豪雪について、いろいろ意見を戦わせて、市に対して10項目の意見書を提出した。それに対して市からは丁寧な回答はあったが、必ずしも前向きな答えばかりではない。例えば、3日間で2メートルくらい積もって交通が全く途絶えてしまった地域がかなりあって、1週間車が動けなかった。そうすると買い物に行けない。雪がなければスーパーまでは歩いて10分で行けるところが行けなかった。年配の方は非常に苦労したと思う。3日分くらいの食料はみんな持っているが、1週間となるときつい。それに対して市から何らの援助もなかった。町内会の人は自分のことで精一杯で家の周りの除雪で大変だった。それについて、市の回答では「3日間は自力で生活できる備えをするよう周知に努めている。4日目以降も入手できない状態が続く場合は、市の備蓄品や救援物資の配付等、行政による公助での対応を想定しているが、まずは地域住民の皆さんによる共助の取組の中で対応いただきたいと考えている」と、住民に押し付ける感じである。

ここで皆さんに提案したいのは、令和4年7月26日付けの市からの回答を時間があったら、興味があったらでよいが、読んでいただきたい。このまま同じように雪が降ったら、同じようなことがまた繰り返されるのではないかと気づいたことがあれば、次回、その辺を議論したいと思う。

【富田委員】

確認だが、市から回答がきて、その回答で対策ができるかどうかという観点で皆さんの意見を求めるのか。

【瀧市会長】

そうである。このままでは3年前と同じことになるのではないかと思っている。項目が多すぎるので全てについて議論の対象とすることはできないと思うが、例えば食料の問題など我々の生活に直結するようなことについてである。私の提案に質疑

を求める。

【杉本委員】

先日、町内会長を集めて除雪会議が行われた。除雪会議というのは国道、県道、市道の除雪をどうするか、どこの業者がどの路線を除雪するか、その路線の奥まったところに雪を持って行ってよいか悪いか、というようなことを話し合うものである。町内会長と市の職員と業者との打ち合わせの会議が毎年あるが、除雪をどうするかという話だけで、今言われたような食料の買い出しだとか、道が塞がってどうにもならなくなつた時にどうしてくれるのかというようなところまでは話が及んでいない。その会議の後に一斉雪下ろしをどういう手順でやるかという会議をやる。4年前の大雪の時は、「一斉雪降ろしをやります」と市が決定して、最後の排雪が終わるまでに14日間かかった。雁木のあるところはその間も雪が残っているわけだから、それではとても生活できないということで、町内会長の皆さんのがかなり強く要望して、今回示されたのは10日間と4日だけ短くなった。

【瀧市会長】

私が皆さんにお願いしたいのは、そういう自分の経験も含めて、令和4年1月の大雪の時の経験、それについての地域協議会が出た意見書、市からの回答もあるのでこれを読んでみて、これについて議論したほうがよいのではないかと思う。それを次回の議題としたいがよいか。

【吉田委員】

意見書への市からの回答を協議会の開催通知に同封してもらいたい。

【石黒係長】

通知を送付するのは12月の第2週になる。

【瀧市会長】

その前に見たい人は市のホームページからお願いしたい。

【吉田委員】

今日欠席している委員もいるので同封してほしい。

【瀧市会長】

目を通すだけでもかなり違うので、お手数でもお願いしたい。

以上で、次第2 自主的な審議（1）今後の活動についてを終了する。

— 次第3 事務連絡 —

【瀧市会長】

次第3 事務連絡に入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

- ・今後の地域協議会等の日程連絡

第8回地域協議会：12月15日（月）18：30から

高田城址公園オーレンプラザ

第9回地域協議会：1月19日（月）18：30から

高田城址公園オーレンプラザ

【瀧市会長】

- ・ただ今の説明について質問を求めるがなし
- ・全体を通して質問等を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL: 025-522-8831 (直通)

E-mail:nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。